

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	73人	算数	74人	理科	74人
第5学年	国語	88人	算数	89人	理科	88人

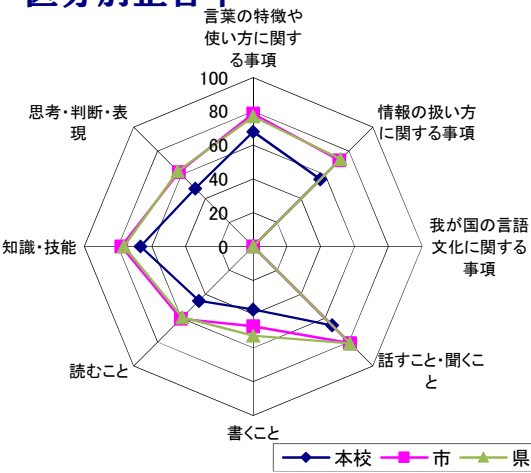
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.9	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	56.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	66.1	81.0	81.1
	書くこと	37.3	47.2	52.8
	読むこと	45.4	60.5	59.3
観点	知識・技能	66.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	48.5	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

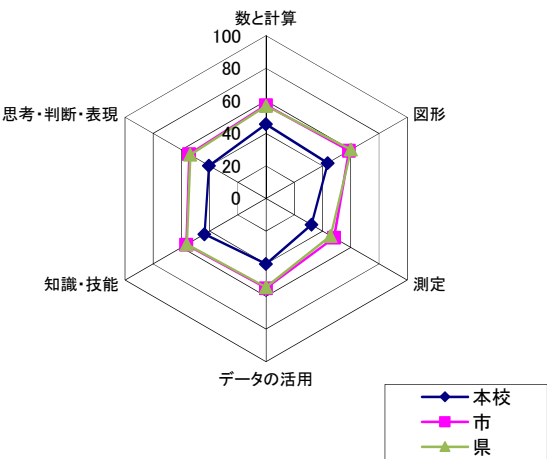
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●本領域の正答率は67.9%で、県の正答率を9.0ポイント下回った。 ○「漢字を正しく書く。」では、県の正答率と同程度のものもあった。 ○「主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ。」の正答率は61.6%で、県の正答率と同程度である。 ●「絵を見て適する指示語を選ぶ。」の正答率は78.1%で、県の正答率を12.7ポイント下回った。	・漢字を定着させるために、漢字の色々な使い方に触れさせたり、小テストをこまめに行ったりする。 ・指示語について復習するとともに、状況に合う指示語を選ぶ問題に取り組ませたり、指示語を使った短文を書かせたりすることで、知識の定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	●本領域の正答率は56.2%で、県の正答率を16.9ポイント下回った。国語辞典に載っている語句の順番について、課題が見られる。	・国語辞典の使い方については、語句の掲載されている順番や基本的な使い方を丁寧に確認しながらおさえるとともに、授業中に使う機会を設けて活用させることで、児童にとって身近なものになるように心掛ける。
話すこと・聞くこと	●本領域の正答率は66.1%で、県の正答率を15.0ポイント下回った。 ○話した内容や話し方の工夫を選択する設問では、無解答率が他の設問に比べて低かった。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながらまとめる。」の正答率は60.3%で、県の正答率を21.7ポイント下回った。	・スピーチや話し合いの場面を多く設定し、理由を挙げながら自分の考えを述べることを習慣化させていく。 ・話を聞くときには、話し手の伝えたいことや工夫を意識して聞くようにさせる。
書くこと	●本領域の正答率は37.3%で、県の正答率を15.5ポイント下回った。 ●設問全てにおいて、無解答率が34.3%であることから、書くことに抵抗のある児童や問題が終わらなかった児童が多いことが分かる。	・授業や家庭学習で作文や日記を取り入れる。また、国語だけでなく他教科でも自分の考えや分かったこと、振り返りなど文章を書く機会を多く作ることで、書くことへの抵抗感をなくし、粘り強く課題に取り組めるようにする。 ・視写を取り入れたり、作文の書き方や段落構成などを繰り返し指導したりすることで、文章を書くときの基礎を身に付けさせる。
読むこと	●本領域の正答率は45.4%で、県の正答率を13.9ポイント下回った。 ○「登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ。」の正答率は74.0%で、他の設問に比べ正答率が高かった。 ●文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く設問では、無解答率が高かった。	・授業の中で日常的に字数制限を設けた問題を取り入れ、慣れるようにする。 ・物語文では、様子や情景描写などに着目させて、人物の気持ちなどを読み取らせる。 ・言葉遊びやゲームを取り入れることで、楽しみながら自然と語彙を増やせるようにしていく。 ・国語の時間に、物語文では情景と心情の読み取りを丁寧に扱ったり、説明文では段落のつながりや構成を確認したりして、文章の中のキーワードを考えさせながら要約がまとめられるよう、読み取りの手順をしっかりと押さえた学習を継続する。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	45.6	57.4	56.9
	図形	43.6	58.7	60.1
	測定	32.1	48.1	45.7
	データの活用	40.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	43.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	40.4	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

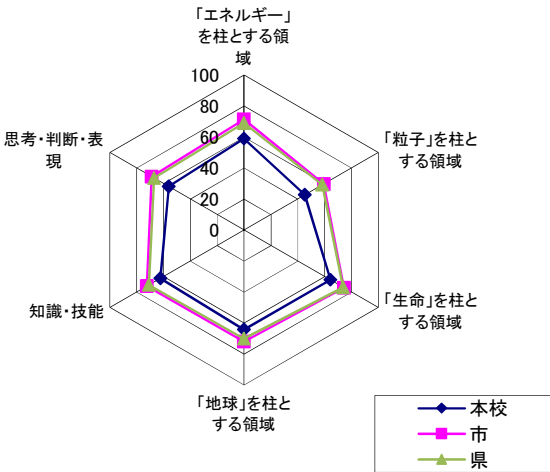
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本領域の正答率は45.6%で、県の正答率を13.6ポイント下回った。 ●「小数を数直線の上に表すとき、どこに位置するかを説明する。」の正答率は18.9%で、県の正答率を21.0ポイント下回っている。 ●「余りを切り上げて答えを求める。」の正答率は、37.8%で、県の正答率を16.8ポイント下回っている。 ●「余りの考えをもとに計算の間違いを説明する。」の無解答率は50%で、県の無解答率より18.4ポイント高い。	・数直線のしくみや、目盛りの読み取り方について、整数の数直線と関係づけて指導することで、小数や分数についても数直線の上に表したり読み取ったりできるようにする。 ・あまりのあるわり算では、商と余り、わる数の関係の理解が不十分であったと考えられる。わり算を使う際には、復習を取り入れ理解させる。
図形	●本領域の正答率は43.6%で、県の正答率を16.5ポイント下回った。 ●「球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ。」の正答率は、48.7%で、県の正答率を25.3ポイント下回っている。 ●「正三角形を作図する。」の正答率は56.8%で、県の正答率を21.0ポイント下回っている。	・円と球については、直径、半径の長さから図形がイメージできるよう、ICTなどを活用し、平面図や断面図などに表して形を捉えられるようにしていく。 ・既習事項を活用して、応用的な問題にも解答できるようにする。 ・図形の性質に着目し、定規やコンパスの性質や使い方について継続的に指導し、操作活動を取り入れていくことで知識・技能の定着を図る。
測定	●本領域の正答率は32.1%で、県の正答率を13.6ポイント下回った。 ○「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える。」の正答率は29.7%で、県の正答率を0.2ポイント上回った。 ●「時間が経過する前の時刻を求める。」の正答率は33.8%で、県の正答率を22.2ポイント下回っている。	・数量感覚が身に付いている児童と身に付いていない児童の差が大きいと考える。 ・時間の経過に関する問題では、日常生活における時間の経過を捉えて考えさせるよう、模型の時計や数直線を用いて理解できるようにする。また、様々な形式の問題に触れる機会を設ける。
データの活用	●本領域の正答率は40.1%で、県の正答率を14.2ポイント下回った。 ●「二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える。」の正答率は44.6%で、県の正答率を15.1ポイント下回っている。	・問題の意図がくみ取れなかった児童も、表の見方の理解が不十分な児童もいたと考えられる。類題を授業や家庭学習などで取り組ませ、定着を図る。また、他教科と関連して、テーマに応じた表やグラフを作成したり、表やグラフをよんだりする活動を通して、さらなる定着を図る。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	58.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	45.3	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	64.3	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	64.2	72.0	70.1
観点	知識・技能	62.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	56.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●本領域の正答率は58.9%で、県の正答率を10.2ポイント下回った。 ○「輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ。」の正答率は55.4%で、県の正答率を1.1ポイント上回った。 ●「風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える。」や「電気の通りの道の名称を答える。」、「実験結果から、空き缶は塗装を削ると電気を通すことを答える。」の無解答率がいずれも20.3%と、県の無解答率より高い。	・実際に作った車に風を当てたり、削った缶に回路をつなげて明かりがつくかどうか調べたりする実験を通して、実感をもって理解できるように指導していく。 ・風の強さともものを動かすはたらきの関係や、電気の回路について調べる活動を通して、相違点や共通点を基に自分の考えを表現したり、知識をまとめたりすることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の正答率は45.3%で、県の正答率を13.0ポイント下回った。 ○「粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿った結果を選ぶ。」や「実験の様子を示した図を基に、実験結果が異なった理由を選ぶ。」の無解答率がいずれも4.1%と比較的低い。どちらも選択式の問題である。 ●「実験結果から同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを答える。」の正答率が70.3%で県の正答率を18.1ポイント下回っている。	・身の回りにある物を用いて実験を行い、体積を同じにしたときの重さの違いを、手ごたえなどの体感を基にしながら比較させるようにする。また、物の形や体積と重さの関係を捉えられるように指導していく。 ・体積を同じにしたときの物の重さの違いについて、自分の考えを表現したり、知識をまとめたりすることで理解の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	●本領域の正答率は64.3%で、県の正答率を9.5ポイント下回った。 ○「記録カードを比べてわかることを選ぶ。」の正答率は91.9%で、県の正答率と同程度だった。 ●「モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を答える。」では正答率が28.4%で、県の正答率を14.3ポイント下回った。また無解答率が14.9%で、県の無解答率より10.4ポイント高い。	・昆虫の育ち方について、変態の仕方の違う昆虫を用意するなどし、それらを比較しながら観察ができるような活動を取り入れ、実感をもって理解できるよう指導していく。 ・普段の生活の中で、生き物についての興味関心は高く、実感をもって理解することはできるので、今後は自分の考えや理由などを文章で表現したり、相手に分かりやすく伝えたりする場を積極的に設ける。
「地球」を柱とする領域	●本領域の正答率は64.2%で、県の正答率を5.9ポイント下回った。 ○「温度計の正しい使い方を選ぶ。」の正答率は89.2%で、県の正答率を6.5ポイント上回った。 ●「太陽と日陰の位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ。」の正答率は66.2%で、県の正答率を11.6ポイント下回った。	・かげのできる向きと太陽の関係など、日々の生活体験と関連付けられる視点を多く提供し、日頃から科学的な現象に対する興味関心を高められるよう支援する。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」について、肯定割合が79.5%と県の肯定割合を5.2ポイント上回った。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」について、肯定割合が76.9%と県の肯定割合を14.1ポイント上回った。これらの結果から、自分で何を学習すべきなのかを考えて、家で勉強に取り組んでいる児童が多いことが分かる。年度当初に全児童に配付している「家庭学習のヒント集」を活用させるなど、家庭学習への意欲向上と習慣化を図れるような取組を、学校全体として今後も継続していきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」について、肯定割合が66.7%と県の肯定割合を4.8ポイント上回った。4年生となり、授業の中でのICT機器の使用が増え、一人一台端末の扱いにも慣れてきたと感じている児童が多いことがうかがえる。今後も学習内容に応じて学校図書館司書と連携を図り、図書館を積極的に活用したり、一人一台端末を使用したりして、個別最適な学びが実現できるような環境を整えていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」について、肯定割合が78.2%と県の肯定割合を1.1ポイント上回った。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である。」についても、肯定割合が85.9%と県の肯定割合を3.0ポイント上回った。今後もより深い話し合いができるように、話し合いの仕方を工夫するなどしていきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」について、肯定割合が80.8%と県の肯定割合を9.4ポイント上回った。今後も自分で調べることで、「分かった。」や「できた。」といった達成感を感じられるようにし、探究心を育てていきたい。

●「1か月に何冊くらい本を読みますか。」について、1冊も読まないと回答した児童の割合は16.7%で、県の肯定割合を9.1ポイント上回った。朝の読書の時間をきちんと確保し、毎日少しでも読書をする習慣作りを進めていきたい。また、読み聞かせやブックトークを行うなど、読書の楽しさを感じられるような指導の工夫を行っていきたい。

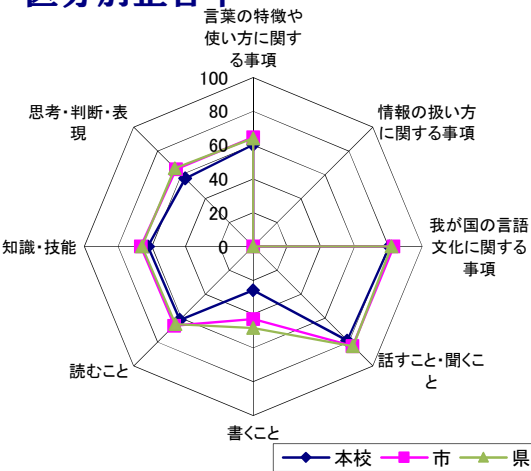
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」について、肯定割合が70.5%で県の肯定割合を6.7ポイント上回った。授業のまとめの際にキーワードを出させ、それを基に自分の言葉でまとめたり、言葉だけでなく図を用いてまとめたりするなど、いくつかの方法を提示し、文章を書くことへの抵抗感を減らしていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画を見たり聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく。)」や「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」について、4時間以上と回答した児童がそれぞれ20.5%、18.0%と県の肯定割合よりも高かった。このことから、ノースマホ・ノーゲームデーや学級懇談会の際に、テレビやゲームの時間の再確認を呼び掛けるなどして、家庭と連携しながら有意義な時間の使い方について考えさせていきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.2	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	80.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	78.7	83.3	83.4
	書くこと	25.9	42.8	48.2
	読むこと	61.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	62.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	56.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

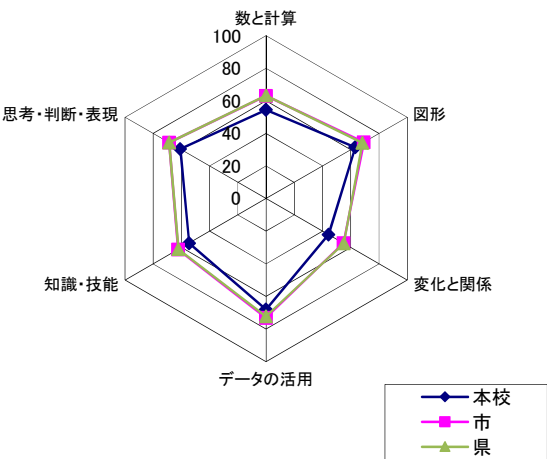
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●本領域の正答率は60.2%で、県の正答率を3.9ポイント下回った。 ○漢字の読み書きの問題では、県の正答率と同程度であった。 ○『『正月に』が修飾している言葉を選ぶ。』の正答率は15.9%で、県の正答率を1.2ポイント上回った。 ●「熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ。」の正答率は19.3%で、県の正答率を19.2ポイント下回った。	・定期的に漢字の復習に取り組ませたり、短文作りをしたりするなど、既習の漢字の習熟が図れるようにする。 ・文の構成を考える際に、言葉を四角で囲んだり色分けしたり矢印で結んだりして、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に気付かせ、理解することができるようにする。 ・各単元の学習の中で、文章中に出てくる熟語について指導する機会を意図的につくり、児童が熟語の意味を理解しながら文章を書いたり、読み取ったりできるよう努める。
我が国の言語文化にに関する事項	●本領域の正答率は80.7%で、県の正答率を1.2ポイント下回った。ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることに課題が見られる。	・ことわざについては、先人の知恵や教訓、機知に触れながら言葉の意味を理解させ、それらを使った例文を考えるなどして自分の表現に用いることができるようにする。 ・ことわざ以外にも慣用語や故事成語などに機会を捉えて触れ、意味を知って日常生活で用いることができるようにする。
話すこと・聞くこと	●本領域の正答率は78.7%で、県の正答率を4.7ポイント下回った。 ○『『絵を使った学校しようかい』と『歌の発表』のどちらがよいと思うかについて、自分の考えを理由を挙げながらまとめる。』の正答率は85.2%で、県の正答率を0.3ポイント上回った。 ●「参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く。」の正答率は68.2%で、県の正答率を9.1ポイント下回った。	・話し合いの際には司会者や参加者の役割を確認し、司会者は参加者の発言を基に考えをまとめることができるよう助言する。また、話し合いの進行や内容について全員で振り返ることで、課題に合った話し合いであったか確認し、話し合いのスキルを磨くように指導していく。 ・必要に応じて進行表、黒板用の掲示物などを作成し、スムーズな話し合いができるよう支援する。 ・各教科のグループ活動などで司会の役割を全員が経験するようにし、話し合いの経過をみながら意見をまとめる活動を取り入れる。
書くこと	●本領域の正答率は25.9%で、県の正答率を22.3ポイント下回った。 ●設問全てにおいて無解答率が30.7%であることから、書くことに抵抗のある児童や問題が終わらなかった児童が多いことが分かる。 ●「アンケート調査の結果を読み、2段落構成で文章を書く。」の正答率は20.5%で、県の正答率を25.0ポイント下回った。	・各教科において、学習をまとめたり振り返りをしたりする際に、キーワードを提示して的確に文章を書けるようにする。 ・テーマや量を工夫した自由作文をたくさん書かせることで、書くことへの抵抗感を減らせるようにする。 ・文型や接続語などを提示して、文章表現の幅を広げたり、伝えたいことを分かりやすく表現したりすることができるよう指導していく。
読むこと	●本領域の正答率は61.5%で、県の正答率を3.6ポイント下回った。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、空欄に適するものを選ぶ。」の正答率は75.0%で、県の正答率を8.4ポイント上回った。 ●「話し合いの様子を読み、文章の内容と合っていることを話している人物を選ぶ。」の正答率は54.6%で、県の正答率を11.3ポイント下回った。	・学校司書と協力し、各教科・単元に関連する平行読書やブックトーク等を行うことで、学習や図書への興味関心を高めるようにする。 ・本に親しませるとともに、分からない言葉を辞書で調べる活動を取り入れることで、語彙を増やしていけるようにする。 ・説明文の学習の際には、段落の分け方を考える時間を設け、段落相互の関係に注意して内容を読み取ることができるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.5	63.0	63.3
	図形	63.2	69.2	68.3
	変化と関係	44.2	54.8	55.0
	データの活用	68.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	54.5	62.3	62.1
	思考・判断・表現	60.8	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

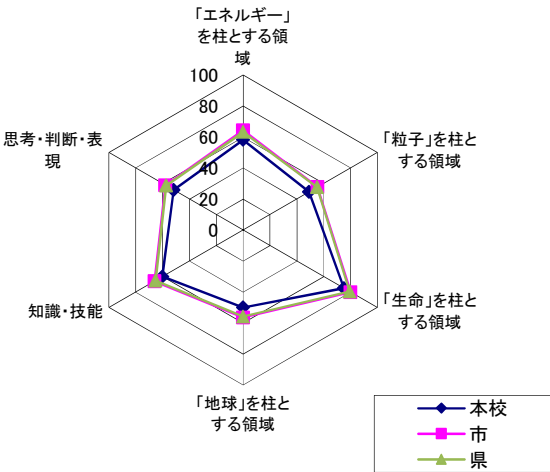
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本領域の正答率は54. 5%で、県の正答率を8. 8ポイント下回った。 ○「帯分数を、もとにする分数のいくつかで大きさを考える。」の正答率は60. 7%で、県の正答率を2. 8ポイント上回った。 ●「2つの小数について、もとにする小数のいくつかで大きさを比べる。」の正答率は37. 1%で、県の正答率を17. 5ポイント下回った。 ●「計算の間違いを説明する。」の正答率は39. 3%で、県の正答率を17. 2ポイント下回った。	・小数の概念については、4学年までの数のしくみの学習を想起させ、位に着目するよう指導していく。 ・四則計算のきまりを徹底させるために、朝の学習の時間にプリント等を使って反復練習を行い、定着が図れるようにする。
図形	●本領域の正答率は63. 2%で、県の正答率を5. 1ポイント下回った。 ○「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める。」の正答率は53. 9%で、県の正答率と同等の値となった。 ●「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ。」の正答率は55. 1%で、県の正答率を15. 6ポイント下回った。	・三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせてできた角の大きさを求めることはできる。しかし、角度の加減計算が苦手な児童が多く見られるので、立式するときには数を並べるのではなく、意味を考えながら行うことを意識させる。
変化と関係	●本領域の正答率は44. 2%で、県の正答率を10. 8ポイント下回った。 ○「表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える。」の無解答率は5. 6%で、県の無解答率とほぼ同等の値となった。 ●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す。」の正答率は37. 1%で、県の正答率を13. 7ポイント下回った。 ●「割合を使った長さの求め方を説明する。」の正答率は23. 6%で、県の正答率を16. 2ポイント下回った。	・伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、割合を求めたりする学習に苦手意識が強い児童が多い。今後は割合の単元を実施する際に、類似問題をたくさん解き問題に慣れさせることで、苦手意識を克服させたい。 ・本領域での無解答率が高いことから、問題に取り組むこと自体難しい児童が多かったと考えられる。今後は、授業で自力解決する場面を多く設定し、問題を読み解く力を付けさせたい。 ・割合について、苦手意識の強い児童には、練習問題を解く際に公式の使い方を指導し、あてはめることで答えを導く方法を教えるようにする。
データの活用	●本領域の正答率は68. 0%で、県の正答率を4. 3ポイント下回った。 ○「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る。」の正答率は69. 7%で、県の正答率とほぼ同等の値となった。 ●「二次元の表の空欄がどのような人数を表しているか説明する。」の正答率は68. 5%で、県の正答率を7. 9ポイント下回った。	・表の意味が理解できずに、必要な情報を読み取ることが苦手な児童がいるため、無解答率が高いと考えられる。算数だけでなく、理科や社会など他教科でもグラフや表から情報を読み取る経験を積み重ねていくようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	58.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	49.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	75.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	50.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	60.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	51.7	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●本領域の正答率は58.2%で、県の正答率を5.0ポイント下回った。 ○「図で示された回路から電流が流れない原因の箇所を選ぶ。」の正答率は67.1%で、県の正答率を2.4ポイント上回った。 ●「図で示された回路における乾電池のつながり方の名称を答える。」の正答率は56.8%で、県の正答率を10.5ポイント下回った。 ●「回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針の振れ方を示した図を選ぶ。」の正答率は53.4%で、県の正答率を9.7ポイント下回った。	・基本的な理科の用語については、用語が何を意味し、どのような現象や概念を指すのかを繰り返し指導していく。口頭での確認だけでなく、プリント等を活用した記述練習なども取り入れるようにする。 ・教科書に書いてある言葉だけで覚えるのではなく、実際の事象と結びつけて考えることや、生活の中から同じ事象や似た事象を見つける時間を設定したり、投げ掛けをしたりすることで、実感を伴った理解が図れるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の正答率は49.1%で、県の正答率を6.0ポイント下回った。 ○「ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の、手ごたえの変化を答える。」の正答率は93.2%で、県の正答率を2.7ポイント上回った。 ●「実験結果から分かる水の温まり方を適切にまとめた考察を選ぶ。」の正答率は53.4%で、県の正答率を13.6ポイント下回った。 ●「実験結果のようになった理由を、温度による空気の体積の変化に着目して答える。」の正答率は25.0%で、県の正答率を4.7ポイント下回った。また無解答の児童が10.2%いることが分かった。	・身近な粒子に関する現象を、授業の中で実験をして確かめたり、具体例を挙げて紹介したりすることで、理科と実生活の関連性を高め、実感を伴って理解できるようにする。 ・短答式や記述式で無解答が増えることから、授業で実験を行った際には、結果から何が分かりどのように考察をまとめるかについて、具体的な書き方を示し、理科の用語を文脈の中で適切に活用できるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	●本領域の正答率は75.0%で、県の正答率を4.3ポイント下回った。 ○「夏に記録されたサクラのようすを示した図を選ぶ。」の正答率は90.9%で、県の正答率を1.5ポイント上回った。 ●「骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ。」の正答率は27.3%で、県の正答率を14.7ポイント下回った。 ●「人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異を答える。」の正答率は72.7%で、県の正答率を8.3ポイント下回った。	・骨の様子など、実際に観察することが難しい事柄に関しては、ICTや模型などを活用し、理解を深めさせるようにする。 ・プリント等を活用して、問題文の指示を正しく読み取り、「全て選択する」等の解答の仕方に慣れることができるようにする。 ・予想を立てたり、結果から考察したりと、自分の言葉で説明する活動を充実させるようにする。
「地球」を柱とする領域	●本領域の正答率は50.0%で、県の正答率を5.8ポイント下回った。 ○「実験結果から水がしみこみやすい粒の特徴を答える。」の正答率は86.4%で、県の正答率を3.8ポイント上回った。 ●「水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名称を答える。」の正答率は40.9%で、県の正答率を20.4ポイント下回った。 ●「雨の日の気温を示したグラフを選び、1日の気温の変化に着目して選んだ理由を答える。」の正答率は44.3%で、県の正答率を19.6ポイント下回った。	・日頃の生活や自己の経験、見聞などと関連付けながら、児童の興味関心を高め、授業外でも意識して天体や天候などに触れることができるようにする。 ・天気や気温など、授業時間だけでは観察が難しいものについては、写真や映像資料、モデルなどを用いて、実際の様子をイメージしやすいような工夫を取り入れ、身の回りにある自然現象に興味をもって学習に取り組むことができるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」について、肯定割合が68.8%と県の肯定割合を13.6ポイント上回った。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」についても、肯定割合が68.8%と県の肯定割合を2.0ポイント上回った。今後も自主学習ノートなどを活用させ、家庭学習への意欲向上と習慣化を図れるようにしていきたい。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」について、肯定割合が67.7%と県の肯定割合を9.0ポイント上回った。同項目において昨年度は12.8ポイント下回ったという結果を踏まえて、国語辞典や漢字辞典を積極的に活用してきた成果が表れたと考えられる。引き続き、国語の学習で辞書や辞典を使って新出漢字等の読みや意味、筆順を調べる活動を取り入れるとともに、各教科の調べる学習の中でも積極的に利用する機会を設けていきたい。

○「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)。」について、1時間未満の使用と回答した児童は41.7%で、県の肯定割合を9.4ポイント上回った。スマートフォンや携帯電話を持つ児童は増えていることから、基本的なルールの順守など、学校での情報モラルの指導に加え、家庭内でもルールを決めて安心・安全に使うことを啓発していくなど、継続した指導や啓発が重要だと考える。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」について、1時間以上と回答した児童は9.4%で、県の肯定割合を6.9ポイント下回った。児童が読書の楽しさを味わい、徐々に読書の習慣が身に付くように、朝の読書や図書室の利用をより充実させていきたい。

○●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」について、肯定割合が85.4%と県の肯定割合を7.1ポイント上回った。一方で、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」について、肯定割合が75.0%で県の肯定割合を13.5ポイント上回った。他の項目からも、友達と話し合うことや発表することについては進んで取り組めるが、自分の考えを書くことに苦手意識をもっている児童が多いことがうかがえる。授業の際には教師がまとめを提示するだけでなく、キーワードを出させ、それを基に自分の言葉でまとめさせるなど、段階を踏みながら文章を書くことへの抵抗感を減らしていきたい。

●「社会の学習は好きですか。」について、肯定割合が52.1%で、県の肯定割合を11.7ポイント下回った。一方、「社会の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定割合は82.3ポイントと県の肯定割合と大きな差はなかった。社会科の内容に興味関心が高まり、好きだと感じられる分野や内容が増えていくように、教材や授業の展開を工夫していきたい。

宇都宮市立横川西小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学ぶ楽しさを実感し、確かな学力と学びに向かう力を育成する授業づくり	・宇都宮モデルを基にした授業のデザインの工夫 ・個に応じたきめ細やかな指導の工夫・充実 ・学びに向かう学級集団づくり	・「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は、4年生では92.4%で、県の肯定割合を9.0ポイント、5年生では88.6%で、県の肯定割合を7.0ポイント上回った。 ・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合は、4年生では82.0%で、県の肯定割合を7.3ポイント、5年生では77.1%で、県の肯定割合を3.2ポイント上回った。
・基礎・基本の定着を図る指導の徹底	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施 ・家庭学習への意欲向上と習慣化(家庭学習強化週間・「けやきツズチャレンジ」)	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」や「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」等、家での学習に関する設問については、肯定割合が県の肯定割合よりも高い傾向にある。 ・漢字の読み書きや計算に関して、定着に個人差が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・4、5年生ともに、「授業で自分の考えをまとめて書くことは難しい。」と考えている児童が多い傾向にある。 ・記述式の問題での正答率が低く、無解答率が高くなる。	・児童の自己表現を高める活動の工夫	・授業の中で、自分の考えや友達の考えを書く活動を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。 ・授業のまとめや振り返りをノートやワークシートに記述する時間を確保する。その際、キーワードを出させ、それを基に自分の言葉でまとめさせるなど、段階を踏みながら文章を書くことへの抵抗感を減らしていくようにする。